



# 東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子  
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年11月30日発行 第9号



## 変わりゆくもの、変わらないもの

岩内東小学校長 齊藤 信之

岩内岳が白く染まり、登校してくる子どもたちもすっかり冬支度となりました。早いもので、気が付くと今年もあと一カ月を残すのみとなりました。

オリンピックイヤーとして希望や夢を膨らませ、多くの感動が生まれるはずの本年でしたが、コロナとの厳しい闘いが続いています。各種大会の中止により活躍の場を失い、目標に向かってひたむきに練習を続ける日々やその結果生まれる達成感や成就感を味わうことができないまま過ごしてきた子どもたちが多くいます。今、学校で表出している子どもの姿には、そんなやり切れなさも関係しているのかもしれませんが。子どもたちの健やかな成長を願い、引き続きご家庭との連携を密に進めたいと思います。お力添えをよろしくお願いいたします。

放送委員会の子たちが活躍している「お昼の校内放送」の中に、心温まるコーナーがあります。「いつも一緒に遊んでくれてありがとう。また一緒に遊ぼうね。」「いつも勉強をするとき、真剣ですごいです。」「いつもみんなに優しくしてくれてありがとう。」など、日頃の「ありがとう」の気持ちを届けるコーナーです。届けられた子はもちろん、それを聞いた周囲の子たちにも、温かな思いが伝わります。同じように、カードに書き出して伝え合うことを始めた学級も見られています。言葉は人を攻撃し傷つけるためのものでなく、相手を知り自分を知ってもらうための道具です。こんな時だからこそ「ありがとう」を伝え合うことを大切にしたいと思います。

26日には、「小中一貫教育サポート事業」の一環として、東小、西小の両校における中学校の先生による乗り入れ指導による授業をビデオ通話ソフトを使用して、町内はもとより広く全道の先生方に発信しました。本校では、一中の鈴木教諭、本校の中野教諭、ALTのアリー先生の三人による5年1組の外国語の授業を公開しました。また、本校にしながら西小の算数や理科の授業も参観することができました。

研究授業といえ、一日がかりでの移動も苦にせず、教室に流れる空気感や学びに向かう子どもたちの熱気を肌で感じながら参加してきたものです。今回のようにパソコン画面ごしに授業を参観したり、遠く離れた者同士が画面上で話し合いを進めたりすることには、隔世の感がありました。アフターコロナの時代には、学校の全てが元通りに戻るのではなく、新しい授業や学習のスタイルが定着していくことになるかと予見されており、その一端を垣間見ることができたように思います。自分自身の学びとして真剣に課題に向き合い、友だちとの交流を通して学びを深めていく5年生の姿に、教育における不易と流行について考えさせられた一日となりました。